

## ことわざ・慣用句

青菜に塩  
足蹴(あしげ)にする  
悪貨は良貨を駆逐する  
言い得て妙  
いざ鎌倉  
意趣(いしゆ)返し  
一堂(いちどう)に会(かい)する  
一再ならず  
一敗、地に塗(まみ)れる  
否でも応でも  
鰯の頭も信心から  
魚心(うおごころ)あれば水心  
有卦(うけ)に入る  
うだつが上がらない  
烏有(うゆう)に帰す  
得手に帆を上げる  
縁なき衆生(しゅじょう)は度し難し  
お先棒を担ぐ  
小田原評定(ひょうじょう)  
尾羽(おは)打ち枯らす  
汚名(おめい)を雪(そそ)ぐ  
快刀乱麻を断つ  
確信犯  
かわたれどき(彼は誰時)  
河童(かっぱ)の川流れ  
金(かね)の草鞋(わらじ)で尋ねる  
間(かん)、髪(はつ)を容(い)れず  
千天(かんでん)の慈雨(じう)  
奇貨(きか)居(お)くべし  
木に竹を接ぐ  
肝(きも)に銘(めい)じる  
窮(きゆう)すれば通ず  
義を見てせざるは勇無きなり  
口車(くちぐるま)に乗る  
玄人はだし  
勿頭(ふんけい)の交わり  
犬馬(けんば)の勞(ろう)をとる  
公算(こうさん)が大きい  
紺屋(こうや)の白袴(しろばかま)  
子は三界の首柳  
細大(さいだい)漏(も)らさず  
賽は投げられた  
思案投げ首  
獅子身中(しんちゆう)の虫  
下にもおかない  
秋波(しゅうは)を送る  
春秋(しゅんじゆう)に富む  
食指(しょくし)が動く  
酸いも甘いも噛み分ける  
寸毫(すんごう)も疑わない  
出る杭は打たれる  
前車の轍を踏む  
惻隱(そくいん)の情

## 意味

元気をなくしてしょげている様子  
ぞんざいに扱ったり酷い扱いをすること  
室の良い貨幣と悪貨がともに流通している場合、良貨は貯蔵などで姿を消し、悪貨のみが流通する  
表現が適切でわかり易く、的確に言い表している事  
一大事が起きた場合に言う言葉  
恨みを返すこと。仕返し。復讐  
同じ場所に集まる。  
一度や二度ではなく。何度も  
二度と立ち上がれないほど、徹底的に打ち負かされること。  
どうしても 承知でも不承知でも  
鰯のようなつまらないものでも信仰する人にとってはひどく有難いものだという事  
相手が好意を示せば、こちらも好意を持って対応しようということ。  
幸運に恵まれ、良いことばかりが続く事  
地位・生活などがよくなる。ぱっとしない。  
何もかもなくなってしまうこと  
待ち受けた好機の到来を利用して得意な分野で自分の力を思う存分振るうことのとえ  
いくら相手の身になって言い聞かせても事を聞き入れない人間はどうしようもない、救いがたいということ  
何かをする時にすぐに加担する者、手先になって使われる者のこと  
長引くだけで、いっこうに埒があかない相談(話し合い)のとえ。  
隆盛を誇っていた者が地位や財産を失って、落ちぶれてしまうことのとえ  
不名誉な評判や悪評を振り払うこと。  
複雑な物事や紛糾した問題を手際よく明快に処理する例え＝一刀両断  
自分の良心に基づき、正当な行いだと信じて行う犯行  
明け方頃の時間帯をさす  
その道の名人でも、時には失敗することがあることのとえ。弘法にも筆の 誤り。  
鉄でできた草鞋は擦り減らないことから、根気よく探し回ることのとえ  
髪の入る間隙もないほど、間を空けずに。  
苦しい時に救いに恵まれることのとえ  
よい機会は逃さずに、うまく利用しなければならないこと  
ちぐはぐで調和や釣り合いがとれないことのとえ。  
深く心にとどめて決して忘れない。  
最悪の事態に陥ると、かえって活路が開けるものということ。  
人として当然なすべき道を知りながら実行しないのは、勇気がないからであるという戒めの言葉  
言葉巧みに言われてだまされる。おだてに 乗る。  
素人が芸芸や学問など専門家が驚くほど優れている事  
きわめて親密な付き合いのとえ。「勿頭」とは、首をはねること。＝管鮑の交わり、水魚の交わり  
君主や目上の人、または他人のために全力を尽くすことを、へりくだって言うことば。  
公算は確立、確実さの度合いを言う。×「公算が強い(濃い、高い)」  
他人のためにばかり働いて、自分のことに手が回らないこと。＝髪結いの乱れ髪  
親は子への愛情のために苦勞が絶えず、その一生を子供によって束縛されることのとえ  
細かいことも大きいこともすべて。  
事ここに至っては結果はどうなるうとも、断行するほかない。＝乾坤一擲  
良い案が無くて困っていること  
内部にいながら害をもたらす者や、恩を仇で返す者のたとえ。  
丁寧にもてなして下座(しもざ)に置かない。「一ない歓待ぶり」  
女性が男性の気を引くために、媚びた目つきで見つめること。  
若くて、将来が希望に満ちている。春秋＝年、年齢  
あることをしてみようという気になること  
人生経験を積み、人情に精通し、世の中の裏も表も知り尽くしている事  
少しも疑わない  
頭角を現す人は、とかく人から憎まれたりねたまれたりすることのとえ  
人の犯した失敗を後の人が繰り返すこと  
哀れに思ふ気持ち。可哀想であると感じる心持ち。惻隱。

ぞっとしない	つまらない、さえない
茶毘(だび)に付す	火葬にすること
竹馬の友	幼馴染み
夙(つと)に	早くから。ずっと以前から
手を拱(こまね)く	事が起きたときに、何もしないで傍観している。
天網恢恢(てんもうかいかい)疎(そ)にして漏らさず	悪事を行えば必ず捕らえられ、天罰をこうむるということ。
掉尾(とうび)を飾る	物事を立派に締めくくる。「一の一振」
虎の尾を踏む	非常な危険をおかすことのたとえ。
流れに棹さす	時流に乗る
にやける	なよなよしていること
二の句が継げない	あきれたり驚いたりして、次に言うべき言葉を失う。
人間いたるところ青山あり	大望を成し遂げるためならどこへでも行って、大いに活躍すべきであるという事
熱に浮かされる	夢中になって見境がなくなること。高熱でうわ言を言う。×「熱にうなされる」
齒(きぬ)に衣(きぬ)着せず	相手に遠慮なく、率直に思ったことを言うことのたとえ。
鼻白(はなじろ)む	興ざめする。
半夏生(はんげしょう)	7月1, 2日頃、この日までに「畑仕事を終える」目安で、この日から5日間は休みとする地方もある。
比目(ひもく)の枕	夫婦の契りの深いこと 仲の良い夫婦のたとえ
暇(ひま)を持て余す	時間はあるが何もする事がなく、退屈なさま
覆水(ふくすい)盆(ひら)に返らず	一度してしまった失敗は取り返しがつかないということ
下手(て)の考え休みに似たり	よい考えも浮かばないのに長く考え込むのは何の役にも立たず、時間の無駄
望外(ぼうがい)の幸せ	望んでいた以上に良い結果であること
眦(まなじり)を決する	怒りや気力を奮い起こした時の表情
身を粉(こ)にする	労力を惜しまず仕事をする
門前(かど)の小僧(こぞう)、習わぬ経(きょう)を読み・	普段見聞きしているといつの間にかそれを学び取ってしまう、環境が人に与える影響の大きさの例え
やぶさかでない	喜んでする
横車(よこぐるま)を押す	道理に合わないことを無理に押し通す。
梁上(りょうじょう)の君子(くんし)。	盗賊。泥棒。ハリの上に入るネズミの異称
目端(めばた)が利く	その場に応じてよく才知(さいち)が働く。機転(きてん)がきく。
やおら	ゆっくと動作(どうさ)を始めること